令和６年度 第２回公共施設マネジメントワークショップ@小金原

～小金原地域と学校のあり方を考える～

■開催日時：令和６年９月２８日（土）
１５時３０分～１７時３０分
■会　場　：小金原市民センター２階 ホール
■出席者　：３０名

■プログラム：①開会あいさつ
②第１回ワークショップの振り返り
③趣旨説明・グループワークの内容説明
④グループワーク①
⑤全体発表
⑥総評・閉会
⑦グループワーク②（閉会後、他グループに自由に移動・追加意見募集）

●令和６年７月２０日開催　令和６年度 第１回公共施設マネジメントワークショップ@小金原　前回

令和５年度実施のワークショップの結果を踏まえ、**小金原市民センターの導入機能・規模や配置イメージ、小金原市民センターの再整備手法について検討**しました。

●令和６年９月２８日開催　令和６年度 第２回公共施設マネジメントワークショップ@小金原　今回

小金原地域と学校のあり方を考えることを目的として、**小金原地域の学校に期待する役割、小金原地域の学校における具体的な活動イメージを検討**しました。

第１回ワークショップの振り返り（ワークショップ配布資料より抜粋）

１．第１回ワークショップの振り返り（これまでの振り返り）

●平成29年度（2017年度）
①平成29年12月10日：ワークショップ『みんなで考える小金原の未来』
②平成30年２月４日：シンポジウム『鳩山に学ぶ』
③平成30年３月４日：懇談会『誰もが安心して暮らしつづけることができる社会づくり』

●平成30年度（2018年度）
①平成30年９月16日：ワークショップ①
②平成30年10月21日：ワークショップ②
③平成31年３月９日：ワークショップ③
『公共施設将来シナリオを見直して、地域のみんなで小金原に活気を取り戻す』

●令和元年度（2019年度）
①令和元年12月15日：シンポジウム『ニュータウンの将来に備え、これからの「まち空間」を考える』
②令和２年２月９日：懇談会『将来の小金原市民センターのあり方を考える』

●令和５年度（2023年度）
①令和６年２月18日：ワークショップ『まちの活気づくりに貢献する公共施設のあり方を考える』

●令和６年度（2024年度）　今年度実施
①令和６年７月20日：ワークショップ『小金原市民センターのあり方を考える』

１．第１回ワークショップの振り返り

令和６年度 第１回公共施設マネジメントワークショップ@小金原 開催結果
小金原地区会まちづくり部×松戸市

令和６年度第１回公共施設マネジメントワークショップ@小金原
～小金原市民センターのあり方を考える～

■開催日時：令和６年７月２０日（土）
１５時３０分～１７時３０分
■会　場　：小金原市民センター２階 ホール
■出席者　：約３０名
■プログラム：①開会あいさつ
②これまでの取組のおさらい
③趣旨説明
④グループワーク①（全体発表含む）
⑤グループワーク②
⑥総評・閉会

■ワークショップ

●令和６年２月１８日開催　令和５年度 小金原地域ワークショップ　前回
これまでの活動の振り返りを行うとともに、コロナ禍など社会状況の変化を踏まえ、まちの活気づくりに貢献する**小金原市民センターに必要な機能について検討**しました。

令和５年度のワークショップの結果を踏まえ実施

●令和６年７月２０日開催　令和６年度 第１回公共施設マネジメントワークショップ@小金原　今回
令和５年度実施のワークショップの結果を踏まえ、**小金原市民センターの導入機能・規模や配置イメージ、小金原市民センターの再整備手法について検討**しました。

１．第１回ワークショップの振り返り

グループワークの検討内容

■グループワーク①
テーマ：小金原市民センターを長寿命化改修した場合、どのような施設にしたいか
～諸室の機能と規模についての検討～
・令和５年度実施のワークショップの結果を踏まえた**「小金原市民センターの導入機能・規模や配置イメージ」**について、意見交換しました。

主な意見
- 老人福祉センターは、高齢者（60歳以上）だけでなく、全世代・誰でも使えるような施設とし、多世代交流ができる明るい空間を望む意見が多く挙げられました。
- 諸室の機能を限定せず、利用目的に合わせてパーテーションで区切り、多目的な利用ができる諸室（ホールや会議室等）を望む意見が多く挙げられました。
- ホールは現状の機能を維持しつつ、歌やダンス等で大きな音を出しても大丈夫な防音設備を望む意見、利用目的に合わせてパーテーションで区切っても設備を使えることを望む意見等が挙げられました。
- 図書館分館は現状の機能を維持しつつ、学習スペース、読書スペースや絵本の読み聞かせスペース等の機能を追加した新しい図書館の使い方を望む意見が多く挙げられました。

１．第１回ワークショップの振り返り

グループワークの検討内容

■グループワーク②
テーマ：小金原市民センターの機能改善や利便性向上のための手法について
・老朽化した小金原市民センターの再整備手法として想定される**「長寿命化改修」、「現地建替え」及び「移転建替え」の各手法のメリット・デメリットを踏まえ、どの手法が望ましいと思うか**について意見交換しました。

主な意見

	長寿命化改修	現地建替え	移転建替え
良いと思う点	・現施設は小金原の中心地にあり、立地環境が良い ・（建替えと比較して）コストを抑えることができる	・現在地の利便性を引き継げる ・市民ニーズに合った機能の追加や見直しができる	・施設や駐車場の規模を拡大することができる ・現施設の跡地を有効活用できる
懸念される点	・諸室配置・追加できる機能・規模に制約がある ・建替えとのコストの比較が必要 ・いずれ建替えが必要	・建替え中に施設を利用できない ・（長寿命化改修と比較して）コストが多くかかる	・移転場所を確保する必要がある ・小金原地域全体の今後の方向性を決定しないと移転場所を決めることが難しい

第１回ワークショップの振り返り（ワークショップ配布資料より抜粋）

１．第１回ワークショップの振り返り

グループワークの総評

■グループワークの総評

・グループワーク①の各班の発表及びグループワーク②の意見交換の結果を踏まえ、村山教授（東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻 都市計画研究室）から、総評をいただきました。

総評の概要

- 老人福祉センター部分は、高齢者（60歳以上）だけでなく、誰でも使えるような多世代交流が可能な施設とすることを望む意見が多く挙げられていた。
- 空間づくりの考え方として、「静かな空間（静）」と「にぎやかな空間（動）」を分ける、「誰でも入れる空間」と「ある程度利用目的を特化した空間」を分けるといったメリハリが必要という意見、また、利用目的に応じた柔軟な使い方できるよう、パーテーションで区切れるような設備を望む意見が多く挙げられていた。
- 現施設のスペースが限られているため、中庭に面する廊下の上手な使い方（例：バーカウンター形式の作業ができるスペース等）や現施設の周囲を囲む低い柵をなくして、周辺道路・周辺施設との境界をなくすこと等の新しい空間づくりの工夫が必要である。
- 色々な機能が少しずつ入っているような諸室・機能の配置（幕の内弁当的）ではなく、施設の利用者の属性や使い方（ペルソナ）を具体的に考えながら、施設のあり方や導入機能・規模を検討することが重要である。

松戸市や小金原地域の状況（ワークショップ配布資料より抜粋）

松戸市や小金原地域の状況等 【資料２】

１．これまでのおさらい

■松戸市（小金原地域）で想定される課題

人口減少

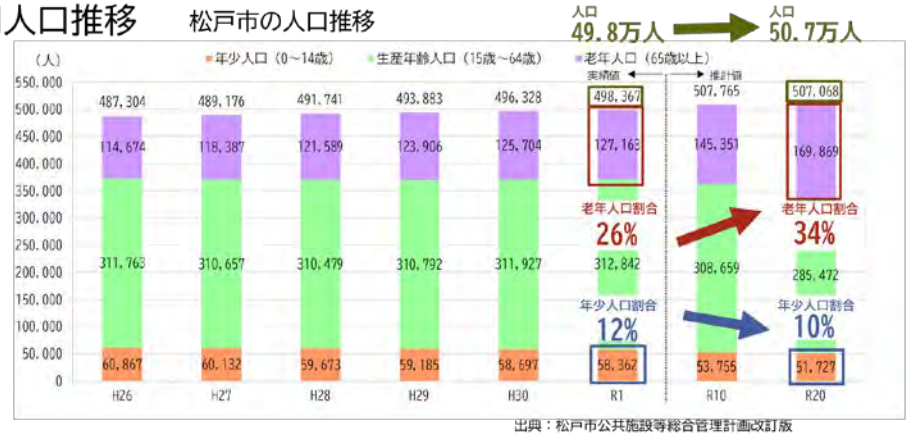
公共施設の老朽化・一斉更新

少子高齢化

財政上の制約

１．これまでのおさらい （人口、少子高齢化）

■人口推移 松戸市の人口推移



出典：松戸市公共施設等総合管理計画改訂版

松戸市の人口は、令和元年と令和20年を比較すると、
ほぼ横ばい（約1.7%増）ですが、
老年人口の割合は約26%から約34%に**増加**
年少人口の割合は約12%から約10%に**減少**する見込みです。

１．これまでのおさらい （人口、少子高齢化）

■人口推移 小金原地域の人口推移

	人口			年少人口（0～14歳）			生産年齢人口（15～64歳）			老年人口（65歳以上）		
	令和元年	令和10年	令和20年	令和元年	令和10年	令和20年	令和元年	令和10年	令和20年	令和元年	令和10年	令和20年
小金原地域	27,727	24,007	21,239	3,041	2,411	2,062	15,524	13,122	10,580	9,162	8,474	8,597
	—	▲ 13.4	▲ 23.4	—	▲ 20.7	▲ 32.2	—	▲ 15.5	▲ 31.8	—	▲ 7.5	▲ 6.2
松戸市	498,367	507,765	507,068	58,362	53,755	51,727	312,842	308,659	285,472	127,163	145,351	169,869
	—	1.9	1.7	—	▲ 7.9	▲ 11.4	—	▲ 1.3	▲ 8.7	—	14.3	33.6

人口 約2.8万人 → 人口 約2.1万人
年少人口割合 約11% → 年少人口割合 約10%
老年人口割合 約33% → 老年人口割合 約40%

出典：松戸市公共施設等総合管理計画改訂版

小金原地域の人口は、令和元年と令和20年を比較すると、
約23.4%減少すると見込まれています。

小金原地域の老年人口の割合は、
約33%から**約40%に増加**する見込みです。

人口は減少し、老年人口割合の増加が見込まれます。

１．これまでのおさらい （人口、少子高齢化）

■人口推移 **最新のデータ**では… 小金原地域の人口推移

令和元年度との比較		令和10年度推計
人口	27,727人	▷ 24,007人 （減 3,720人）
年少人口	3,041人	▷ 2,411人 （減 630人）
生産年齢人口	15,524人	▷ 13,122人 （減 2,402人）
老年人口	9,162人	▷ 8,474人 （減 688人）

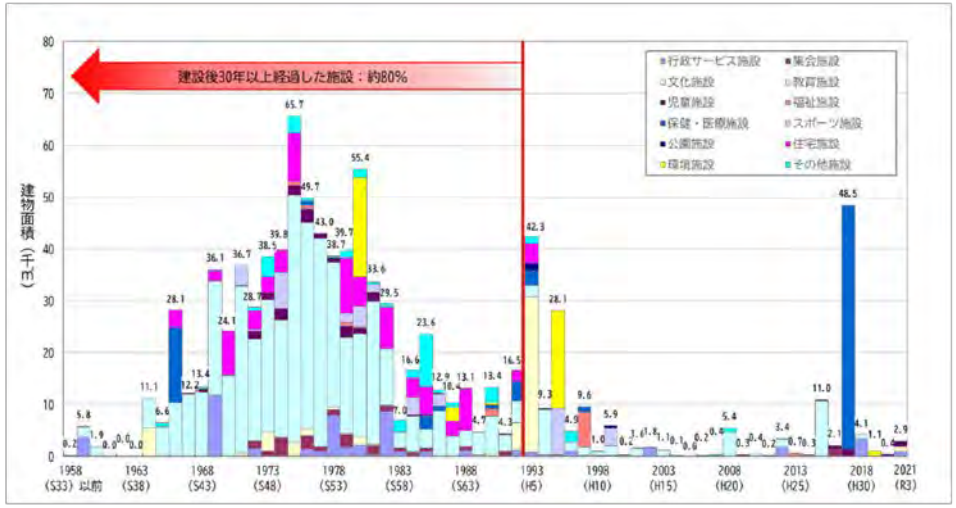
令和元年度との比較		令和5年度実績
人口	27,727人	▷ 27,500人 （減 227人）
年少人口	3,041人	▷ 2,913人 （減 128人）
生産年齢人口	15,524人	▷ 15,533人 （増 9人）
口	9,162人	▷ 9,054人 （減 108人）

▷10年間で**3,720人**の人口減少と想定していましたが、5年間で**227人**の人口減少に留まっており、人口減少は想定より緩やかです。
また、老年人口の割合も約33%でほぼ横ばいです。

松戸市や小金原地域の状況（ワークショップ配布資料より抜粋）

1．これまでのおさらい（公共施設の老朽化）

■公共施設の整備状況



出典：松戸市公共施設等総合管理計画改訂版

1．これまでのおさらい（公共施設の老朽化）

■小金原地域の主な公共施設

施設名称	施設分類 大分類	施設分類 中分類	建築年度	築年数	延床面積
小金原支所	行政サービス施設	支所	昭和51年	47年	163㎡
旧根木内東小学校（校舎）	行政サービス施設	その他行政サービス施設	昭和53年	45年	3,752.10㎡
小金原市民センター	集会施設	市民センター	昭和51年	47年	703.58㎡
図書館小金原分館	文化施設	図書館	昭和51年	47年	188㎡
タウンスクール根木内	文化施設	社会教育施設	昭和51年	47年	931.48㎡
根木内小学校	教育施設	小学校	昭和44年	54年	7,452㎡
栗ケ沢小学校	教育施設	小学校	昭和44年	54年	7,935㎡
貝の花小学校	教育施設	小学校	昭和50年	48年	7,014㎡
栗ケ沢中学校	教育施設	中学校	昭和44年	54年	9,104㎡
根木内中学校	教育施設	中学校	昭和52年	46年	7,734㎡
旧根木内東小学校（体育館・倉庫・プール）	教育施設	その他教育施設	昭和53年	45年	813㎡
小金原保育所	児童施設	保育所	昭和43年	55年	632.22㎡
コアラ保育所	児童施設	保育所	昭和47年	51年	1,197.57㎡
小金原老人福祉センター	福祉施設	高齢者対象施設	昭和51年	47年	825.94㎡
小金原体育館	スポーツ施設	体育館等	昭和59年	39年	3,228.78㎡
栗ケ沢公園庭球場	スポーツ施設	競技場・球場	昭和47年	51年	391.28㎡
ユーカリ交通公園	公園施設	公園管理施設等	昭和60年	38年	324.87㎡
小金原住宅	住宅施設	市営住宅	昭和44年	54年	2,048.65㎡
小金原併存住宅	住宅施設	市営住宅	昭和47年	51年	3,574.10㎡

昭和40年代、50年代に建設された公共施設が多く、老朽化が進行しています。

1．これまでのおさらい（財政上の制約）

■今後見込まれる維持管理や機能更新

これまで整備してきた**公共施設等では老朽化**が進んでおり、

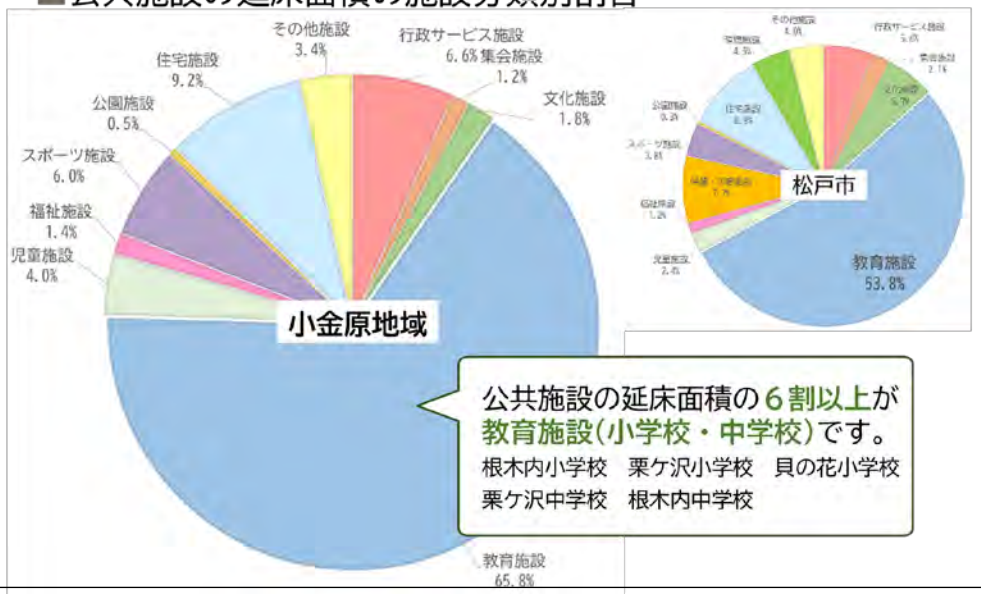
今後、これらの**維持管理や機能更新などが**

集中的に発生した場合には

本市財政への影響も懸念されているところです。

2．小金原地域の学校施設

■公共施設の延床面積の施設分類別割合



公共施設の延床面積の**6割以上**が**教育施設（小学校・中学校）**です。

根木内小学校　栗ケ沢小学校　貝の花小学校

栗ケ沢中学校　根木内中学校

松戸市や小金原地域の状況（ワークショップ配布資料より抜粋）

2．小金原地域の学校施設

■小金原地域の公共施設の配置状況

2．小金原地域の学校施設（松戸市公共施設個別施設計画抜粋）

小学校・中学校

大分類　教育施設　　中分類　小学校・中学校

【施設の現状及び課題】

建築後30年以上を経過した施設が多くを占め、内部や設備の劣化が著しい状況にあり、改修、更新を要します。
トータルコストの縮減、財政負担の平準化及び更新サイクルの適正化を図るためには、利用形態や適正規模の見直しが必要となります。

【施設類型別基本方針】

建替えと長寿命化を組み合わせて再整備を検討します。
統廃合を検討します。（2030年度以降に向けて検討）
学校施設の共同利用を検討します。
当面、学校施設の開放を進め、地域の拠点とします。
今後10年後から本格化する小中学校の建替え時期に地域の施設、図書館、会議室等を校内に設置し、学校と施設（地域密着）の複合化を図ります。

【第1期に検討・実施する施設】

施設番号	施設名称	延床面積（㎡）	建築年（年）	構造	第1期（R1～R10）【取組】	事業内容	担当部署
147	根木内小学校	7,377.48	1969	鉄筋コンクリート造	改修	一部の施設の長寿命化に向けた改修を行います。	教育委員会
148	栗ヶ沢小学校	7,935.00	1969	鉄筋コンクリート造	改修	一部の施設の長寿命化に向けた改修等を行います。	教育委員会

【第1期に検討・実施する施設】

施設番号	施設名称	延床面積（㎡）	建築年（年）	構造	第1期（R1～R10）【取組】	事業内容	担当部署
161	貝の花小学校	7,014.00	1976	鉄筋コンクリート造	改修	図書室等の改修を行います。 ※令和元年度に実施済	教育委員会

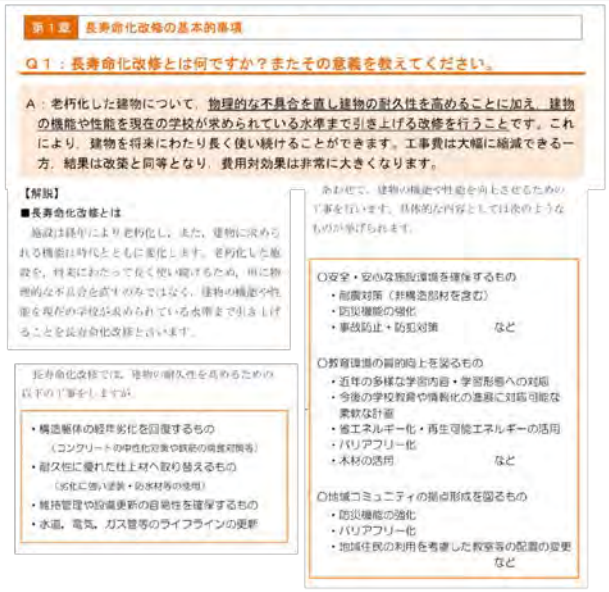
【第1期に検討・実施する施設】

施設番号	施設名称	延床面積（㎡）	建築年（年）	構造	第1期（R1～R10）【取組】	事業内容	担当部署
184	栗ヶ沢中学校	9,067.00	1970	鉄筋コンクリート造	改修	一部の施設の長寿命化に向けた改修等を行います。	教育委員会

【第1期に検討・実施する施設】

施設番号	施設名称	延床面積（㎡）	建築年（年）	構造	第1期（R1～R10）【取組】	事業内容	担当部署
190	根木内中学校	7,734.00	1978	鉄筋コンクリート造	改修	給食室等の改修を行います。 ※令和元年に実施済	教育委員会

2．小金原地域の学校施設（学校施設の長寿命化改修とは）



第1章　長寿命化改修の基本的事項

Q1：長寿命化改修とは何ですか？またその意義を教えてください。

A：老朽化した建物について、物理的な不具合を直し建物の耐久性を高めることに加え、建物の機能や性能を現在の学校が求められている水準まで引き上げる改修を行うことです。これにより、建物を将来にわたり長く使い続けることができます。工事費は大幅に縮減できる一方、結果は改築と同等となり、費用対効果は非常に大きくなります。

【解説】

■長寿命化改修とは

施設は経年により老朽化し、また、建物に求められる機能は時代とともに変化します。老朽化した施設を、将来にわたって長く使い続けるため、単に物理的な不具合を直すのみではなく、建物の機能や性能を現在の学校が求められている水準まで引き上げることを長寿命化改修といいます。

長寿命化改修では、建物の耐久性を高めるための以下の工事をします。

- 構造躯体の経年劣化を回復するもの
  （コンクリートの中性化対策や鉄筋の腐蝕対策等）
- 耐久性に優れた柱土材へ取り替えるもの
  （劣化に強い建具・防水材等の使用）
- 維持管理や設備更新の容易性を確保するもの
- 水道、電気、ガス管等のライフラインの更新

あわせて、建物の機能や性能を向上させるための工事を行います。具体的な内容としては次のようなものが挙げられます。

○安全・安心な施設環境を確保するもの
- 耐震対策（非構造部材を含む）
- 防災機能の強化
- 事故防止・防犯対策　など

○教育環境の質的向上を図るもの
- 近年の多様な学習内容・学習形態への対応
- 今後の学校教育や情報化の進展に対応可能な柔軟な計画
- 省エネルギー化・再生可能エネルギーの活用
- バリアフリー化
- 木材の活用　など

○地域コミュニティの拠点形成を図るもの
- 防災機能の強化
- バリアフリー化
- 地域住民の利用を考慮した教室等の配置の変更　など

文部科学省　学校施設の長寿命化改修の手引き（平成26年1月）　第1章長寿命化改修の基本事項　より一部抜粋

2．小金原地域の学校施設

■現在の学校施設の役割

グループワークの検討結果・全体発表の概要（その１）

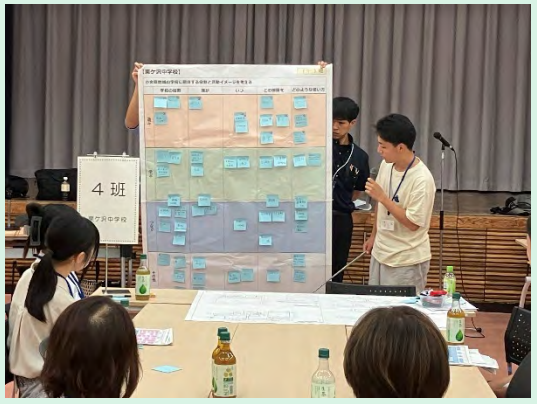
小金原地域と学校のあり方を考えることを目的として、**「小金原地域の学校に期待する役割」**と**「小金原地域の学校における具体的な活動イメージ」**を検討し、全体発表を行いました。

１班：栗ケ沢小学校

２班：栗ケ沢中学校①

３班：根木内小学校

４班：栗ケ沢中学校②



各班の検討結果・全体発表の概要

１班：栗ケ沢小学校

- 学校を地域に開いていくことは重要と考えるが、学校の先生の負担が増えないよう配慮が必要であり、放課後や休日は、地域の方々が子ども世代を見守る役割を担うことが考えられる。
- 子どもや地域の方々が、安全・快適に過ごせる場所とするため、長寿命化改修の際に、気密性と断熱性を向上させ、環境にも優しい施設としていくことが重要である。

グループワークの検討結果・全体発表の概要（その２）

各班の検討結果・全体発表の概要

２班：栗ケ沢中学校①

- 空き教室や校庭を活用し、学生スポーツの拠点（地域の学校が連携し合同で練習する）、アウトドア体験、イベント機能、講座・セミナー、学習ができる場所や中学生による小学生へのオリエンテーションの機会創出といった様々な意見が挙げられた。
- 学校は災害時の避難場所になることから、防災訓練等を通じた地域とのつながりを醸成することが重要である。

３班：根木内小学校

- 根木内小学校には、タウンスクール根木内（おやこDE広場小金原を含む）が設置されており、他の学校と比較して、親子をはじめとした地域の方々に利用されている学校である。
- 学校は子どもたちのためのものということが大前提であるが、「地域の学び舎」としての役割も担っていると考えられ、地域の方々が安心・安全に使えるような施設になることが望ましい。そのためには、子どもたちの安全（防犯・セキュリティ面）、空調やバリアフリー（エレベーターの設置等）に配慮した施設にする必要がある。

４班：栗ケ沢中学校②（栗ケ沢中学校の卒業生の現役高校生とその親世代のグループ）

- 長期休暇や放課後の子どもの居場所づくり（エアコンの効いた部屋、プール、自習室や学習支援）が必要である。また、家に帰りづらい子どもへのカウンセリング機能のようなサードプレイス的な役割を持たせることも重要である。
- 昔の遊びを高齢者から子ども世代に、スマホの使い方を子ども世代から高齢者に教えあえるような環境を作ることで、世代間交流に繋がると考えられる。

栗ケ沢小学校（その１）

（１）班

小金原地域の学校に期待する役割と活動イメージを考える

	学校の役割	誰が	いつ	どの部屋を	どのような使い方
遊ぶ	子どもの居場所 自治会のイベント 放課後、子どもたちが自由にグラウンドで遊ぶ 校庭からも使えるトイレ 高齢者フレイル対策、子ども若者自由に校庭開放、遊具の充実 体育館を授業外に利用	小学生 地域住民 けん玉将棋教室 地域の人	放課後 休日	空き教室(空調必須) 教室	ゲームしてもよい
学ぶ	子ども向け+大人向け体験活動(校庭・体育館)(休日) 小金原地区の未来にとって、人づくり、人材づくりは基本の「き」学校施設はその拠点 学校施設を使いパソコン教室（高齢者向け） 空き教室地域の趣味の会等に開放 「児童館」的な子どもたちが放課後、自由に利用、学べる他 学習の補習を放課後見てほしいシルバーのカも借りて	小・中学生(高校生/大学生) 雑務は先生以外の人の活用を (学校の)教師以外の先生 地域住民(保護者含む)	放課後	空き教室	パソコン教室

■凡例
（全班共通）
各班の意見（全体発表前）
全体発表後の追加意見

栗ケ沢小学校（その２）

（１）班

小金原地域の学校に期待する役割と活動イメージを考える

	学校の役割	誰が	いつ	どの部屋を	どのような使い方
つなぐ	休日　学級以外の教室を地域の人たちが話し合い文化教養のため使う 子どもの居場所 カフェ？学習サポート？ 地域住民の居場所 カフェ？学習サポート？ 地域の人たちの交流できるイベント(お祭り)（休日） 防災訓練(実際に使えるか体験する）（休日） 子ども達のフリースペース、三世代交流できる教室 地域のコミュニティ(公民館的)町会利用 喫茶室 新聞などの閲覧 趣味・体操・合唱など 趣味の会、運動場 体育館の地域へ開放 クーリングシェルター	地域住民 小・中学生(高校生・大学生) 地域住民 小・中学生(高校生・大学生) ミシン指導などの見守り参加 地域の方(シルバー人材)	放課後 休日	図書館 空き教室 校庭	小さな音楽会などの地域との交流 防災倉庫の中を知りたい
その他	安全に子供が過ごす 児童の安全性の確保 子どもたちの安心な居場所（いつでも）	子ども・地域 高校生・大学生 社会・地域への開放は必要だが教員以外で誰が（担うか）	放課後	空き教室 みんなで勉強できる場所	コミュニケーション体験活動 勉強 低学年専用のスクールバス運営(グリスロ活用検討)
	快適に過ごせる 夏は涼しく 冬は暖かく トイレなどゴキブリが出る 気密性、断熱性の向上 90年持たせるなら断熱に力を入れてほしい 植樹して日陰をたくさん作ってほしい	小学生	学校にいる間	全ての教室	勉強する 夏場エアコン20℃設定でもとても暑い！

小金原地域の学校全体に対する意見

- 統廃合を前提にしないこと。統廃合には、教育内容、教員の質と量。方法(例えば小中一貫教育)などの検討が不可欠
- 学校教育内容の多様化→現状に関し不明だが、社会的には大きく変化しているのではないか
- 地域全ての学校を長寿命化するのか
- AEDを学校の外へ

栗ケ沢中学校①（その１）

（２）班

小金原地域の学校に期待する役割と活動イメージを考える

	学校の役割	誰が	いつ	どの部屋を	どのような使い方
遊ぶ	学生スポーツの拠点(地区内ベースで共同)	生徒 先生	休校日 放課後	体育館 グラウンド	全てのスポーツ
	プレイパーク / キャンプ体験 / アウトドア体験	大人も子どもも ファミリー / 地域の人たち 子どもたち	休日 放課後 / 夏休み 春休み	校庭	どろんこ遊びなど / テント設営 BBQなど ハンモック設営
	スタジオ	誰でも	放課後 休日	空き教室	防音設備
	つなぐ、子ども達のやりたいイベント(エンタメ)・ダンスなどの練習場所	中・高生 コース	放課後 休日	音楽室	防音が必要なものの練習をしてもらう ダンス、音楽
	リアル脱出ゲーム	学校・先生が自分の学校を舞台に企画	休日 放課後	脱出のサイズ ①教室、②学校、③地域、④オンラインで他校と一緒に	学生が企画し地域の方に参加してもらう
学ぶ	講座セミナー / パソコン教室 / スマホ教室 / 大人の学習会	地域住民 / 多世代(テーマに応じて)	放課後	空き教室	パソコン教室 スマホ教室 / 運営委員会を作りテーマを決める
	学習塾もどき	小学生 中学生	休日 放課後 / 放課後	空き教室 / 空き教室	地域の人が先生となって
	学ぶ・つなぐ、小学生（入学前）のオリエンテーションby中学生	中学生が小学生にオープンスクール	1月～3月 2～3回	空き教室 スクールツアー	スクールツアー 教室でのお話とQ＆A
	学ぶ・つなぐ、地域の人材等の講師による教室・パソコン・金融・歴史・郷土	地域の人 有志が講師→中・高生、大人、誰でも	放課後	空き教室	講師：地域の方 歴史や防災など伝える

栗ケ沢中学校①（その２）

（２）班

小金原地域の学校に期待する役割と活動イメージを考える

	学校の役割	誰が	いつ	どの部屋を	どのような使い方
つなぐ	居場所 地域ベースの居場所 町会の集り（市民センターが予約できない時など） 地域（町会）コミュニティの場（会館が無い町会）	地域住民 居場所 多世代のボランティア	休校日	空き教室	地域コミュニティの場
つなぐ	サークル活動	多世代			
その他	避難所 体育館など 防災活動 つなぐ・学ぶ、防災イベント、訓練、シリーズ	生徒 地域の人 各家庭	休校日 休校日の夜間も 休日（休校日）	体育館 校庭 空き教室 体育館 他教室 体育館の全面 グラウンド全面	避難訓練 テント設営 非常食を持ち寄り 食事 炊き出し 防災のスキルテーマをシリーズで訓練（段ボールベッド、非常食など）
その他	オープントレーニングルーム	誰でも	いつでも	新設（空いている部屋に設置）	生徒 ↑ 教えあう ↓ 地域の人

根木内小学校

※班の皆さんで「学校は地域の学び舎」という共通のテーマをもって、意見交換・全体発表を実施しました。

（３）班

小金原地域の学校に期待する役割と活動イメージを考える

	学校の役割	誰が	いつ	どの部屋を	どのような使い方
遊ぶ	テレビ視聴室 映画見放題 Free Wi-Fiの基地 外塗をやって欲しい(あまりにも汚い)子どもが愛着を持てる建物にして欲しい 空き教室の利用は1、2階までにして児童との仕切りをつけること	放課後児童クラブの子ども 児童が 赤ん坊が遊べる公園 父母	放課後長期休み 放課後	校庭で 校庭 空き教室体育館 タウンスクールに空調とエスカレーター タウンスクール空調を使えるように	人数に合わせた場所の確保 自由に 児童館 自由に遊ぶ アスレチックを作る
学ぶ	語学教室 趣味教室 図書室住民も使えるように	放課後kids 地域の人 地域の人	放課後	図書室以外も 教室 教室 真夏の居場所にする	自由に利用 英会話中国語等 写真絵画陶芸等
つなぐ	市民センターの分館	地域の方	放課後		カフェ ホール 会議室 食堂 生徒の安全を考えると土日に限る
その他	運用に伴う学校と使う側の関係は？ タウンスクール全室にエアコンをつける 空室にもエアコンをつける タウンスクールへの道路を整備して欲しい 車いすで行けない 雨が降るとどろどろ				空き教室に第２タウンスクールを作る 貸倉庫 もうひとつタウンスクールを作る

栗ケ沢中学校②

（４）班

小金原地域の学校に期待する役割と活動イメージを考える

	学校の役割	誰が	いつ	どの部屋を	どのような使い方
遊ぶ	プール キャンプ 映画上映	近所の人	長期休暇 長期休暇	プール 校庭でBBQ 屋上 食堂	トレーニングルーム 校庭にテントをたてて疑似キャンプ プロジェクターでネトフリ、アマプラで映画を見る
学ぶ	自習室 学習支援 カフートKahoot!を使って楽しく英語の勉強 宿泊避難体験	高学年やボランティア(教える人) 学生 全世代	長期休みや放課後 放課後(夜)	空き教室 図書館一般開放 体育館	自習する 自分より年下の子に勉強を教えたり 宿泊し避難体験をする
つなぐ	ブラスバンドの発表 めんこやコマなどの遊び場 スマホ教室(学生→高齢者) 地域交流(高齢者が若者に昔の遊びを教えたり、話したり) カフェ	近所の人 全世代	長期休暇	空き教室 家庭科室 体育館	全世代が交流できるように スマホの使い方を教える
その他	カウンセリングルームみたいな テレビ視聴室映画見放題 共有フリースペース 子育てしやすい施設 エアコンの効いた居場所	お家に帰りずらい子 親や子 近所の人(高齢者)	毎日放課後 休日	空き教室	雑談したり気軽に話せる仲の人が集まる 子育て相談若い人からベテランママが集まる小さい子用の玩具があると良い

グループワークの総評

■グループワークの総評

・グループワークの各班の発表内容を踏まえ、村山教授（東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻 都市計画研究室）から、総評をいただきました。

総評の概要

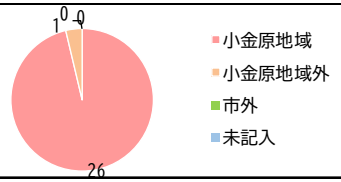
- 学校施設をはじめとする公共施設において新たな取組を進めていく場合、行政だけですべての人的・財政的なリソースを確保することは難しくなってきており、**地域の皆さんが地域のために運営・還元するといった持続可能な実施体制の構築**が求められる。
- 学校施設の長寿命化改修を実施する際は、**耐震化だけでなく、木材の活用（木質化）や太陽光パネル等の設置により環境性能を高め、気候変動に対応した施設を目指す**ことが重要である。また、市民菜園等の運営により多世代交流を図ったり、市民菜園で採れた食材をこども食堂に活用する等の取組も考えられる。
- **市民センターや学校等の地域にある公共施設を「公共施設群」として捉え、全ての施設が同じような機能を持った施設とならないよう、利用者ニーズを踏まえたうえで、施設毎に特徴を持たせた施設とすることが重要**である。
- 地域の学校施設は、学生の**放課後の居場所（サードプレイス）**、**高校生が地域の小中学生に勉強を教えたり、（学校に限らず）公共施設に導入されたカフェ等でアルバイトするなど、多世代交流や地域交流が図られるような施設であることが望ましい。**

参加者アンケート回答結果（回答者27名）

Q0

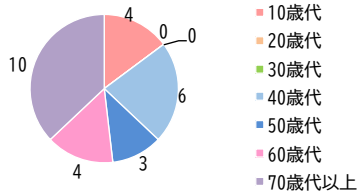
●お住まいの地域

小金原地域	26
小金原地域外	1
市外	0
未記入	0



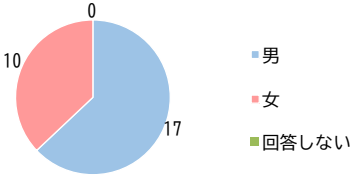
●年齢

10歳代	4
20歳代	0
30歳代	0
40歳代	6
50歳代	3
60歳代	4
70歳代以上	10



●性別

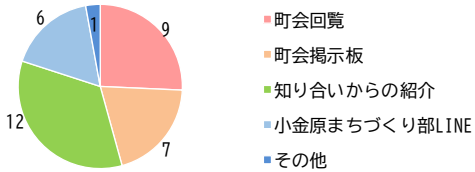
男	17
女	10
回答しない	0



Q1

●何を見てワークショップを知ったか　※複数回答あり

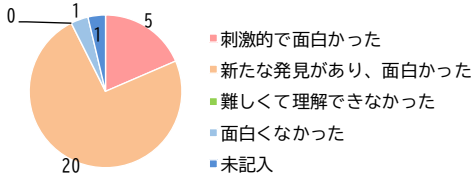
町会回覧	9
町会掲示板	7
知り合いからの紹介	12
小金原まちづくり部LINE	6
その他	1



Q2

●本日のワークショップの感想について　※複数回答あり

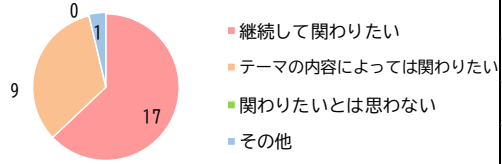
刺激的で面白かった	5
新たな発見があり、面白かった	20
難しくて理解できなかった	0
面白くなかった	1
未記入	1



Q3

●今後も公共施設マネジメントワークショップに継続的に関わりたいか　※複数回答あり

継続して関わりたい	17
テーマの内容によっては関わりたい	9
関わりたいとは思わない	0
その他	1



Q4. ●今後の展開等に関する意見

- 学校のあり方を考える方というテーマだったが長寿命化ありきの話が想定外だった
- 高齢者への終活を始め健康環境の活動啓蒙告知の強化を願います。
- 参考までに云うと「根木内東小学校」は放置されているが、今回のテーマは学校のあり方の議論の前提として弱い。
- 開催を知ったのが直前だったので、市がＨＰやＳＮＳなどで1ヵ月前くらいから告知していただければ、多くの人が都合をつけて参加しやすくなると思う。
- とても興味深い内容で、良かったです。ただ開催を知ったのが、ギリギリでした。もっと早く広く知ることができると、参加したい人が参加できると思います。ホームページや市のＬＩＮＥ、メールで告知してほしいです。
- 「話は聞いた…しかし…」とならない市側の施策をお願いしたい。市政百年の計に沿って…。今後とも継続した、この企画を続けて下さい。期待しています。学校施設への「ソーラ設置」早く実施を…と期待します。
- ・ワークショップでの提案がどれくらい実際の施策に実現されるかを示して欲しい。
  ・ひき続き、子どもや若者・子育て世代の参加を促して欲しい。
  ・ワークショップの運営お疲れ様です。ありがとうございます。
- 団地の建替えの内容によって、人口がかわってくるでしょうから、住宅公団との話し合いをつめて下さい。
- 『新しい公共施設の在り方』と『学校の中身のあり方』を別々に考える会にして欲しい。
- 街づくり(街づくり課、都市計画課)と公共施設(公共施設再編課、教育関連部課)等の共催
- このワークショップは、今日はじめて知ったという参加者がけっこう居たことには驚きました。もっと広く知らせること、気軽に参加できることが大切だと思います。地域で皆の意見交換をやっている松戸市が、市庁舎の移転・建替え問題を広く住民に知らせることもなく、コソコソと結論ありき？の計画を推しすすめていることには疑問をもちます。
- 学校の施設をまずは充実させる必要がある。

Q2. ●本日のワークショップの感想について

- 普段はあまり地元のことを考えることはないが、今回考えれてよかった。
- 学校の防災倉庫を使ったイベントがほしい。
- 高校生が参加していて、大人だけじゃなくよかったです。
- 現在の学校環境(実状)が自分達の時代と異質に感じた。
- 最初に論点を明確にして欲しかった。
- 多くの意見が出てたのしかった。
- ワークショップテーマの方向付けが不明瞭であった。
- 「学校のあり方」のワークショップではなかったかも。公共施設としての使い方を考えるにあたっては学校教職員の働き方も考えないといけないと思いました。
- 大人数で年齢差もある人たちと2時間も議論したことが初めての経験で楽しかったです。
- 改めて学校施設の有効利用を考えさせられ、地域との関わり方を再考させられました。少子化で学校統廃合をし不用(要)となった施設を安易に売却すべきではないと考えました。公共財産を長期にわたって利用する、「学校は全ての住民の学びの場」だと考えさせられました。防災対策上も不可欠の存在です。
- すこし話しがむずかしかったけど、色々な人の話しを聞けて勉強になった。
- テーマが絞られすぎている。小金原地域で学校を含めた公共施設のあり方を考えるというテーマの方がよい。